

ホクコーバサグラン[®]液剤(ナトリウム塩)

■種類名：ペンタゾン液剤
 ■有効成分：ペンタゾン-----40.0%

■登録番号：第16129号
 ■毒性：普通物(毒劇物に該当しないものを指している通称)
 ■登録初年：1985.09.24
 ■性状：赤色澄明水溶性液体
 ■有効年限：5年
 ■包装：500ml×20本

【特長】

- 移植後15～55日まで使用可能な茎葉処理除草剤。
- イネ科以外の一年生雑草および多年生雑草に効果がある。
- クログワイ、コウキヤガラなどの難防除雑草にも効果がある。
- 直播水稻、いんげんまめ、えんどうまめ、べにばないんげん、さやえんどう、実えんどう、麦、たまねぎなどにも適用がある。

【適用内容】(2015年9月30日現在)

作物名	適用雑草名	使用時期	使用量		本剤の使用回数	使用方法	適用地帯	ペンタゾンを 含む農薬の 総使用回数
			薬量	希釈水量				
移植水稻	水田一年生雑草 (イネ科を除く) マツバイ、ホタルイ ウリカワ、オモダカ ミズガヤツリ ヘラオモダカ クログワイ コウキヤガラ エゾノサヤヌカグサ シズイ クサネム	移植後15～55日 但し 収穫50日前まで	500～ 700ml /10a	70～ 100 [㍓] /10a	2回以内	落水散布 又は ごく浅く 湛水して 散布	—	2回 以内
直播水稻	水田一年生雑草 (イネ科を除く) マツバイ、ホタルイ ウリカワ、オモダカ ミズガヤツリ ヘラオモダカ クログワイ	は種後35～50日 但し収穫50日前 まで						

作物名	適用雑草名	使用時期	使用量		本剤の使用回数	使用方法	適用地帯	ペンタゾンを 含む農薬の 総使用回数
			薬量	希釈水量				
たまねぎ (春播移植栽培)	一年生 雑草 (イネ科 を除く)	移植後6月上旬まで (雑草の3～4葉期) 但し収穫30日前まで	60～ 120ml /10a	70～ 100 [㍓] /10a	1回	雑草茎葉 散布	全域	1回
たまねぎ (秋播移植栽培)		移植後生葉4葉期まで (雑草の3～4葉期) 但し収穫30日前まで						
らっきょう		出芽後 (雑草の3～6葉期) 但し収穫60日前まで						
いんげんまめ		初生葉展開期～ 本葉抽出始期 (雑草の2～3葉期)	50～ 70ml /10a				北海道	
えんどうまめ		3～6葉期 (雑草の3～6葉期) 但し収穫70日前まで	100～ 200ml /10a					
さやえんどう		3～6葉期 (雑草の3～6葉期) 但し収穫40日前まで						
実えんどう		3～6葉期 (雑草の3～6葉期) 但し収穫40日前まで						

作物名	適用 雑草名	使用時期	使用量		本剤の 使用 回数	使用方法	適用 地帯	ベンザリンを 含む農薬の 総使用回数		
			薬量	希釈 水量						
とうもろこし 飼料用とうもろ こし	一年生 雑草 (イネ科 を除く)	生育期 (雑草の3～6葉期) 但し収穫 50 日前まで	100～ 150 ml /10a	70～ 100 $\frac{リットル}{10a}$	1 回	雑草茎葉 散布	全域	1 回		
ソルガム		生育期 (雑草の3～6葉期) 但し収穫 30 日前まで								
麦類 (小麦を除く)		生育期 (雑草の3～6葉期) 但し収穫 90 日前まで	100～ 200 ml /10a							
小麦		生育期 (雑草の3～6葉期) 但し収穫 45 日前まで								
はとむぎ		生育期 (雑草の3～6葉期) 但し収穫 45 日前まで	150ml /10a						2 回 以内	2 回 以内
べにばないんげん		生育期 (雑草の生育初期～6葉期) 但し収穫 45 日前まで	100～ 200 ml /10a						1 回	畦間雑草 茎葉散布

【効果・薬害等の注意】

- イネ科雑草には効果がないので、イネ科雑草の優占圃場での使用はひかえること。また、イネ科雑草が混在する場合はこれらに有効な除草剤との体系で使用する。
- 散布後、曇天、降雨日が長く続くと効果が劣ることがあるので、晴天時を見はからって散布するのが望ましい。
- 高温条件下では、薬害が生じやすいので異常高温下での散布はさけること。
- 重複散布は薬害のおそれがあるので避けること。また、周辺作物にかからないように注意すること。
- 本剤の使用にあたっては、使用量、使用時期、使用方法等を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合には病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。
- いんげんまめに使用する場合、本剤は葉枯・褐変症状の薬害を生じやすく、蒸散の盛んな高温乾燥条件下では薬害により減収することがあるので、雑草害が予想される場合に限り使用すること。
- たまねぎに使用する場合、直播栽培及び苗床のたまねぎには薬害を生じるおそれがあるので使用しないこと。
- べにばないんげんに使用する場合、薬液が作物に飛散すると葉に褐変症状の薬害を生じるので、作物に飛散しないように注意すること。
- 水稲に使用する場合には一般的な注意事項のほか下記について特に注意すること。
 - ◆ 本剤は水の移動に伴う移行性が大きく、一般に水深の浅いほど効果が安定する。使用にあたっては落水状態にして水の出入りを止め、まきむらのないよう均一に散布すること。水を落とすことができないところでは漏水のない水田に限り、できるだけ浅水状態（雑草が水面上に出る状態）にしてまきむらのないよう均一に散布すること。散布後少なくとも3日間（浅水処理は5日間）はそのままの状態を保ち、入水、落水、かけ流しはしないこと。また、散布後7日間は降雨の有無にかかわらず落水しないこと。処理後2日以内に降雨があると効果が不十分になるおそれがあるので、晴天の持続する時を選んで使用すること。深水にすると効果が劣るので注意すること。
 - ◆ イネ科雑草には効果が劣るので、田植前後の土壌処理除草剤で一年生雑草を防除した後、多年生水田雑草および一年生広葉雑草の防除を目的として使用すること。
 - ◆ 本剤は生育期に入った雑草に効果があるが、雑草、特に多年生雑草は生育段階によって効果にふれが出るので必ず適期に散布すること。ホタルイ、ウリカワ、ミズガヤツリ、ヘラオモダカでは発生盛期から増殖中期、オモダカでは発生盛期から増殖初期まで、クログワイでは草丈 15～30cm、エゾノサヤヌカグサでは1～4葉期、シズイでは草丈 10～30cm、コウキヤガラでは増殖期、クサネムでは本葉展開期が本剤散布の適期である。
 - ◆ クログワイ防除は、必要に応じて有効な前処理剤との組み合わせで使用すること。
 - ◆ 軟弱稲では薬害(接触害)のおそれがあるので使用は避けること。
 - ◆ 高温など薬害を生じやすい条件での使用は多めの希釈水量を用い、低濃度液をなるべく水稲にかからないように散布すること。
 - ◆ 砂質土および漏水のはげしい水田では使用しないこと。(減水深 2cm/日以上)

【安全使用上の注意】

- ※ 誤飲などのないよう注意すること。
- ※ 本剤は眼に対して刺激性があるので眼に入らないよう注意すること。眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けること。使用後は洗眼すること。
- ※ 本剤は皮膚に対して弱い刺激性があるので皮膚に付着しないよう注意すること。付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落とすこと。
- ※ かぶれやすい体質の人は取り扱いに十分注意すること。
- ※ 保管：直射日光をさけ、なるべく低温な場所に密栓して保管すること。